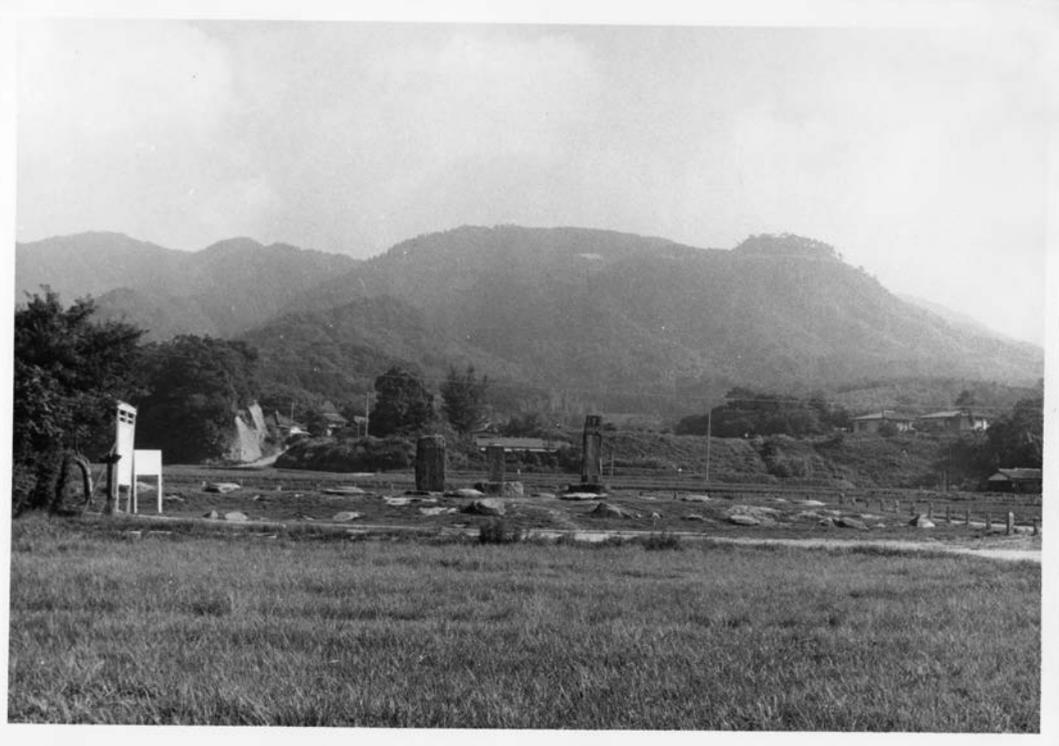


序論

# 大宰府学研究所の経過



1960年代の大宰府政庁跡と大野城跡（旧福岡県太宰府町）

## 序論 大宰府学 研究の経過

第1章 研究の目的と経過	楠井 隆志 小嶋 篤	3
第2章 本書の構成	小嶋 篤	7

序論では、令和元年（2019）～令和2年（2020）における大宰府学 研究の経過を記した後、本書の構成を明示する。第1章では、大宰府学 研究の定義を再確認した後、新元号「令和」の発表や大宰府史跡指定100年という節目、新型コロナウイルス感染流行の情勢下で、研究事業がどのように推移してきたのかを整理する。第2章では、本書に掲載する論考・解説の初出資料を明示する。



九州国立博物館開館15周年・大宰府史跡指定100年記念特集展示「筑紫の神と仏」展示会場

## 第1章

## 研究の目的と経過

楠井 隆志 小嶋 篤

## 1. 大宰府史跡指定100年と大宰府学 研究

九州国立博物館は平成17年（2005）10月16日の開館以来、市民との共生・協働を念頭に置いた事業を展開してきた。その事業の一つが「大宰府学 研究」である。大宰府学 研究の目的とは、市民とともに「大宰府を基点に形成された歴史的環境」を研究し、その成果の公開・活用を考えることにある（赤司・小嶋2019）。

この歴史的環境を五感で体感できる場所が、「大宰府史跡」である。大宰府史跡という名称は、大宰府政庁跡や水城跡等の大宰府関連史跡の総称で用いられている。史跡の核となる大宰府跡（大宰府政庁跡・政庁周辺官衙跡）は、大正10年（1921）3月3日に内務省告示第38号で史跡指定がなされ、令和3年（2021）3月3日で指定100年の区切りを迎えた（本書第1部第1章参照）。この100年間は、遺跡保存問題と調査体制の確立等の切実かつ目まぐるしい経過をたどった。九州国立博物館もまた、大宰府史跡の長きにわたる保存運動の一つの到達点として、大宰府の地に存在する。史跡指定100年を経た大宰府の景観には、人々が学術的研究成果を素材に、大宰府を基点に形成されてきた歴史的環境について考え、問い続けてきた結果が反映されていると言えよう。九州国立博物館が実施する大宰府学 研究も、大宰府の歴史的環境を学び問う過程を通じて、大宰府史跡指定100年後の「新たな文化的景観の形成」に寄与することが期待される（本書第1部第2章参照）。

## 2. 「令和」の大宰府学 研究

平成31年（2019）4月1日に新元号「令和」が発表され、5月1日に改元された。出典となった『万葉集』巻五「梅花の歌三十二首併序」に注目が集まり、「梅花の宴」が催された大伴旅人邸、すなわち大宰府の地がにわかに脚光を浴びた。折しも、発表前日の3月31日に九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集第1集『大宰府学 研究』を刊行したということもあり、「平成」の名残を惜しむ間もなく、「令和」時代の全国的なニーズに対応するための企画を急遽計画することになった。新元号記念特別企画「令和」では、大宰帥・大伴旅人が催した梅花の宴につながる歴史と交流の体系的な繋がりに着目し、大宰府の歴史的環境の形成に焦点を当てた（本書第2部第2章「筑紫・大伴・大伴部」参照）。当企画の会期中（平成31年4月23日～令和元年12月22日）には、280,988人のご来場を頂き、大宰府への高い関心を実感した。

新元号「令和」の発表以後、とくに劇的な変化が生じたのは、大伴旅人邸跡の候補地の一つと目される坂本八幡宮である。御朱印帳の流行も相まって、連日、多くの参拝者が行列をなし、隣接地の大宰府政庁跡・大宰府展示館とともに、大宰府天満宮とならぶ観光地として脚光を浴びている。史跡・寺社への関心の高まりは、大宰府の鬼門に位置する宝満宮竈門神社でも見られた。竈門神社は漫画およびアニメ「鬼滅の刃」の聖地の一つとなり、大宰府天満宮とともに多くの参拝者が訪れている。また、広域での関心の高まりと連動するように、令和2年（2020）には、日本遺産「古代日本の「西の都」～東アジアの交流拠点～」が単一市町で完結する地域型から、複数市町にまたがる広域型へと拡充され、さらなる飛躍が期待される。このように、大宰府を基点に形成されてきた歴史的環境は短期間で劇的な変化が生じている。

九州国立博物館を含む関係機関では、新元号「令和」の機運を受け、令和2年(2020)～令和3年(2021)にかけて、大宰府史跡指定100年の記念事業を体系的に実施できるよう計画を進めていた。九州国立博物館「大宰府学研究」事業シンポジウム『大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－』（令和2年2月23日開催予定）、大宰府史跡指定100年記念フォーラム『大宰府と多賀城』（令和2年2月29日開催予定）等はその先駆けとも言うべき事業であったが、新型コロナウイルス感染拡大抑止のため、双方とも直前で中止という苦渋の判断をせざるを得なかった。新型コロナウイルスの猛威は文化事業全般にも暗い影を落とし続けている。九州国立博物館の事業に限定しても、令和元年度特別展「フランス絵画の精華展」が開催期間中に閉幕、令和2年度特別展「古代エジプト展」・「海幸山幸」・「加耶」が開催中止・延期の判断となった。九州国立博物館開館15周年記念・大宰府史跡指定100年記念特集展示「筑紫の神と仏」もまた、開催期間の短縮や関連事業の中止・延期を余儀なくされた。

緊急事態宣言も発せられる現況を鑑み、九州国立博物館・福岡県立アジア文化交流センターは、大宰府史跡指定100年記念事業・「大宰府学研究」事業として、この2年間で実施あるいは未実施・延期となった事業から、今後の史跡活用に資する研究成果を『九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集第2集』として取りまとめることにした。その意図は各事業でとりまとめてきた最新の調査研究成果を、後の調査研究、史跡保全・活用等の発展へとつなげる一念に尽きる。歴史をふり返れば、梅花の宴が催された天平2年(730)の5年後、天平7年(735)には大宰府を列島内の発生源として、天然痘が全国的な猛威をふるった(本書第5部第2章「神仏と向き合う人の歴史」参照)。天然痘の流行は、平城京を舞台とした藤原四子政権の崩壊、大宰府を舞台とした藤原広嗣の乱の要因となり、古代日本を大きく揺るがした。疫病もまた「大宰府を基点に形成されてきた歴史的環境」の一つであり、それをも取り込んだ発展、包括的な研究が求められている。

以下では、令和元年度および2年度に九州国立博物館が実施した大宰府学研究と関連する研究・事業について、(1) 調査研究、(2) 講演会・シンポジウム・イベント、(3) 展示公開、(4) 教育普及活動の項目ごとに列挙する。

### (1) 調査研究

- ・「大宰之印」再現文化財製作事業(令和元年度)
- ・円珍関係文書「大宰府公験」の複製品・復元品製作事業(令和2年度)
- ・遣唐使船1/20模型製作事業(令和2年度)
- ・国宝 観世音寺梵鐘の調査(令和2年度～)
- ・「[国宝 観世音寺梵鐘]の調査報告」  
論文掲載誌:『東風西声』第16号 九州国立博物館 令和3年  
執筆:望月規史 齋部麻矢 田中麻美 渡辺祐樹 和泉田詢子
- ・「コロナ禍におけるハンズ・オン展示とユニバーサル・ミュージアムの取り組み—九州国立博物館の事例から—」  
論文掲載誌:『東風西声』第16号 九州国立博物館 令和3年  
執筆:茂泉千尋 加藤小夜子
- ・「伝群馬県藤岡市西平井出土象嵌大刀の研究」  
論文掲載誌:『東風西声』第16号 九州国立博物館 令和3年  
執筆:小嶋 篤
- ・「火国の領域設定と鞠智城」  
事業内容:特別史跡指定推進事業 鞠智城跡「特別研究」(主催:熊本県教育委員会)  
論文掲載誌:『鞠智城と古代社会』第9号 熊本県教育委員会 令和3年  
執筆:小嶋 篤

- ・「日中文明遺物の産地探索をめざす中近世沈船・舶載遺物の考古学と自然科学の融合研究」  
事業内容:令和2～4年度科学研究費助成事業 基盤研究(C) 課題番号20K01099  
研究代表者:桃崎祐輔(福岡大学教授)  
研究協力者:小嶋 篤

### (2) 講演会・シンポジウム・イベント

- ・新元号記念特別企画「令和」関連特別講演会「梅花の宴～遠の朝廷の文華～」  
開催日程:令和元年5月6日  
演題及び講師:「梅花の宴～遠の朝廷の文華～」森 弘子(太宰府発見塾塾長)  
特別対談「曲水の宴と蘭亭序」森 弘子・島谷弘幸(九州国立博物館長)  
「万葉歌碑のご案内」小嶋 篤  
開催場所:九州国立博物館ミュージアムホール  
主催:九州国立博物館  
参加人数:120名
  - ・斎宮歴史博物館連携講座「西の都・大宰府と沖ノ島 東の都・斎宮と伊勢神宮～地域祭祀の成り立ちと律令祭祀への変質～」  
開催日程:令和2年1月18日  
開催場所:九州国立博物館ミュージアムホール  
主催:斎宮歴史博物館(令和元年度文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業)  
共催:九州国立博物館・九州歴史資料館  
参加人数:270名
  - ・「大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－」  
開催予定日程:令和2年2月23日  
開催場所:九州国立博物館ミュージアムホール  
主催:九州国立博物館  
※新型コロナウイルス感染抑止のため開催中止
  - ・「大宰府と多賀城」大宰府史跡指定100年記念フォーラム  
開催予定日程:令和2年2月29日  
開催場所:明治大学ミュージアムホール  
主催:福岡県教育委員会・明治大学日本古代学研究所  
共催:宮城県教育委員会  
後援:明治大学社会連携機構・明治大学博物館・九州国立博物館  
※新型コロナウイルス感染抑止のため開催中止
  - ・「筑紫の水・人・祈り」大宰府学研究連続講座  
開催予定日程:令和2年5月23日・6月20日・7月11日・8月8日  
開催場所:九州国立博物館研修室  
主催:九州国立博物館  
※新型コロナウイルス感染抑止のため開催中止
- ### (3) 展示公開
- ・新元号記念特別企画「令和」  
会期:平成31年4月23日～令和元年12月22日  
入場者数:280,988人<sup>1)</sup>

- ・特集展示「筑紫の神と仏」（九州国立博物館開館15周年記念・大宰府史跡指定100年記念）  
会期：令和2年5月19日～8月30日  
図録：「総論 神仏と向き合う人の歴史」小嶋 篤、図版解説ほか104頁  
入場者数：15,646人  
※新型コロナウイルス感染抑止のため、5月19日～31日は臨時休館。
- ・文化交流展「ならべてわかる本物のひみつ 実物とレプリカ」  
会期：令和2年9月8日～11月23日  
入場者数：21,536人  
※新型コロナウイルス感染抑止のためハンズ・オン展示は中止
- ・特集展示「天神縁起の世界」  
会期：令和3年2月2日～3月28日  
図録：「総論 天神縁起の世界」森實久美子、図版解説ほか84頁  
入場者数：13,252人（2月28日現在）

#### （4）教育普及活動

- ・重要文化財「鬼瓦」複製品製作（令和元年度）
- ・ユニバーサル・ガイドブック「大宰之印」作成（令和2年度）
- ・九州国立博物館開館15周年記念映像番組「大宰府と大伴旅人」製作（令和2年度）  
協力・支援：公益財団法人九州国立博物館振興財団

#### 註

- 1) 入場者数は、4階文化交流展示室の入場者数で集計している。

#### 参考文献

赤司善彦・小嶋篤2019「序論 大宰府学 研究の目的と経過」『大宰府学 研究』九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集第1集 九州国立博物館

## 第2章

# 本書の構成

小嶋 篤

本書は、九州国立博物館・福岡県立アジア文化交流センターをはじめ、九州歴史資料館・斎宮歴史博物館・福岡県教育委員会・宮城県教育委員会・明治大学日本古代学研究所が主催・共催した事業から、大宰府学 研究に係わる論考・解説を再構成した内容を中心とし、一部に新稿を含む。当日配布資料を作成したものの、新型コロナウイルス感染抑止のため急遽開催中止となった事業も多く、本書の刊行を通じて、より利便性の高い研究成果の公開を図りたい。

以下に、各章の初出原稿を列挙する。

### 〈序論 大宰府学 研究の経過〉

第1章 研究の目的と経過（新稿）／第2章 本書の構成（新稿）

### 〈第1部 大宰府 研究の歩み〉

第1章 大宰府 研究のあゆみと九州国立博物館（新稿）／第2章 大宰府史跡の歴史（新稿）／第3章 大宰府の印章（新稿）

### 〈第2部 筑紫の大宰と豪族〉

第1章 九州北部の豪族と筑紫大宰（シンポジウム「大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－」当日配布資料を一部改変）／第2章 筑紫・大伴・大伴部（特別企画「令和」解説資料を一部改変）／第3章 象嵌大刀と刀装具の世界（シンポジウム「大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－」当日配布資料を一部改変）／第4章 金銀装大刀と豪族（シンポジウム「大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－」当日配布資料を一部改変）／第5章 伝彦徳横穴墓出土の単獣環頭大刀（新稿）／第6章 筑紫の豪族の馬装（シンポジウム「大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－」当日配布資料を一部改変）／第7章 仙掌菴コレクションの馬具（新稿）

※シンポジウム「大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－」は、令和2年（2020）2月23日に九州国立博物館ミュージアムホールにて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染抑止のため中止となった。当日配布資料は来館者に配布した他、九州国立博物館ホームページ内の「大宰府学 研究」にて公開した。

特別企画「令和」は、平成31年（2019）4月23日～令和元年（2019）12月22日に九州国立博物館4階文化交流展内にて開催し、解説資料は同期間の来館者に配布した。

### 〈第3部 大宰府と多賀城〉

第1章 律令制国家の辺要政策（大宰府史跡指定100年記念フォーラム「大宰府と多賀城」当日配布資料を一部改変）／第2章 大宰府と多賀城（大宰府史跡指定100年記念フォーラム「大宰府と多賀城」当日配布資料を一部改変）／第3章 西の拠点 大宰府（大宰府史跡指定100年記念フォーラム「大宰府と多賀城」当日配布資料を一部改変）／第4章 東の拠点 多賀城（大宰府史跡指定100年記念フォーラム「大宰府と多賀城」当日配布資料を一部改変）／第5章 古代都市 大宰府（大宰府史跡指定100

年記念フォーラム「大宰府と多賀城」当日配布資料を一部改変) / 第6章 古代都市 多賀城 (大宰府史跡指定100年記念フォーラム「大宰府と多賀城」当日配布資料を一部改変) / 第7章 多賀城・大宰府の成立と古代国家 (大宰府史跡指定100年記念フォーラム「大宰府と多賀城」当日配布資料を一部改変)

※大宰府史跡指定100年記念フォーラム「大宰府と多賀城」は、令和2年(2020)2月29日に明治大学アカデミーホールにて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染抑止のため中止となった。当日配布資料は聴講予定者に配布した。

## 〈第4部 「西の都」大宰府・沖ノ島と「東の都」斎宮・伊勢神宮〉

第1章 西の都・大宰府 (斎宮歴史博物館連携公開講座「「西の都」大宰府・沖ノ島と「東の都」斎宮・伊勢神宮」当日配布資料を一部改変) / 第2章 東の都・斎宮と斎王 (斎宮歴史博物館連携公開講座「「西の都」大宰府・沖ノ島と「東の都」斎宮・伊勢神宮」当日配布資料を一部改変) / 第3章 王権祭祀から律令制祭祀へ (斎宮歴史博物館連携公開講座「「西の都」大宰府・沖ノ島と「東の都」斎宮・伊勢神宮」当日配布資料を基にした新稿) / 第4章 考古資料からみた斎宮・伊勢神宮の成立 (斎宮歴史博物館連携公開講座「「西の都」大宰府・沖ノ島と「東の都」斎宮・伊勢神宮」当日配布資料を一部改変) / 第5章 考古資料からみた宗像君・沖ノ島祭祀の実像 (斎宮歴史博物館連携公開講座「「西の都」大宰府・沖ノ島と「東の都」斎宮・伊勢神宮」当日配布資料を一部改変)

※斎宮歴史博物館連携公開講座「「西の都」大宰府・沖ノ島と「東の都」斎宮・伊勢神宮」(令和元年度文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業)は、令和2年(2020)1月18日に九州国立博物館ミュージアムホールにて開催した。

## 〈第5部 筑紫の水・人・祈り〉

第1章 川の歴史学 (平成30年度九州考古学会総会ポスターセッションを基にした新稿) / 第2章 水利の技術と思想 (大宰府学研究連続講座「筑紫の水・人・祈り」の新稿) / 第3章 川と信仰 (大宰府学研究連続講座「筑紫の水・人・祈り」の新稿) / 第4章 神仏と向き合う人の歴史 (特集展示「筑紫の神と仏」の総論を一部改変) / 第5章 風水思想と古墳・都市 (大宰府学研究連続講座「筑紫の水・人・祈り」の新稿) / 第6章 航路でつながる信仰 (大宰府学研究連続講座「筑紫の水・人・祈り」の新稿) / 第7章 海を渡った陶磁器と土師器の交差点 (新稿) / 第8章 基肄城跡と水門 (大宰府学研究連続講座「筑紫の水・人・祈り」の新稿) / 第9章 山城で水をつかう (大宰府学研究連続講座「筑紫の水・人・祈り」の新稿)

※大宰府学研究連続講座「筑紫の水・人・祈り」は、令和2年(2020)5月23日・6月20日・7月1日・8月8日に九州国立博物館研修室にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染抑止のため開催中止となった。

九州国立博物館開館15周年記念・大宰府史跡指定100年記念特集展示「筑紫の神と仏」は、令和2年5月19日～8月30日に九州国立博物館4階文化交流展内にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染抑止のため令和2年6月1日～8月30日に会期を短縮して開催した。

## 〈終論 大宰府学研究成果と展望〉

第1章 研究成果 (新稿) / 第2章 研究の展望 (新稿)